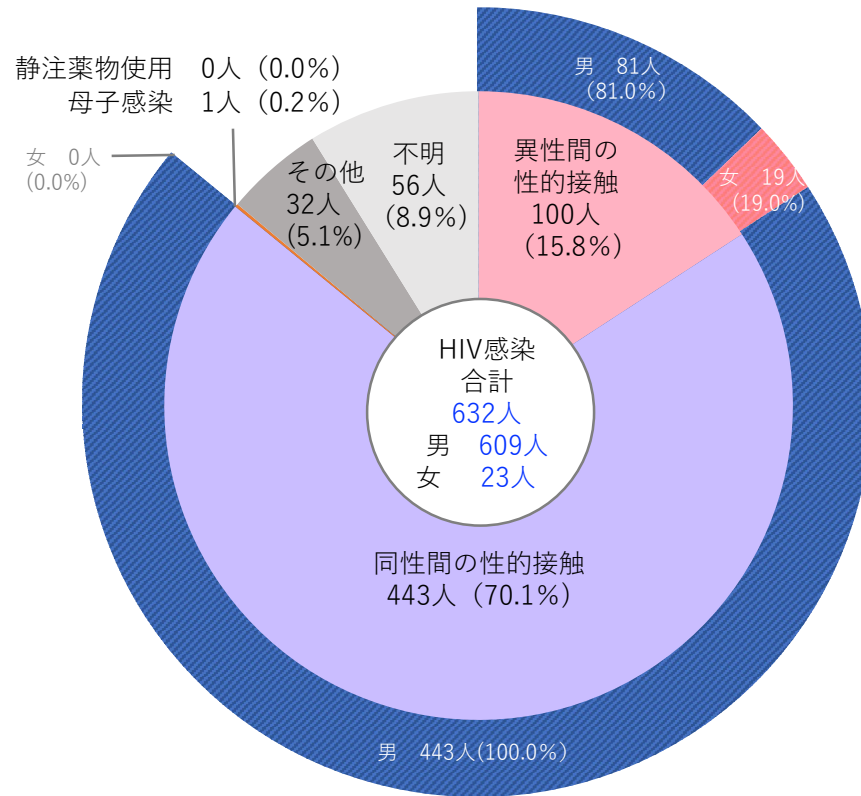


## MSMに関する採血制限の見直しについて

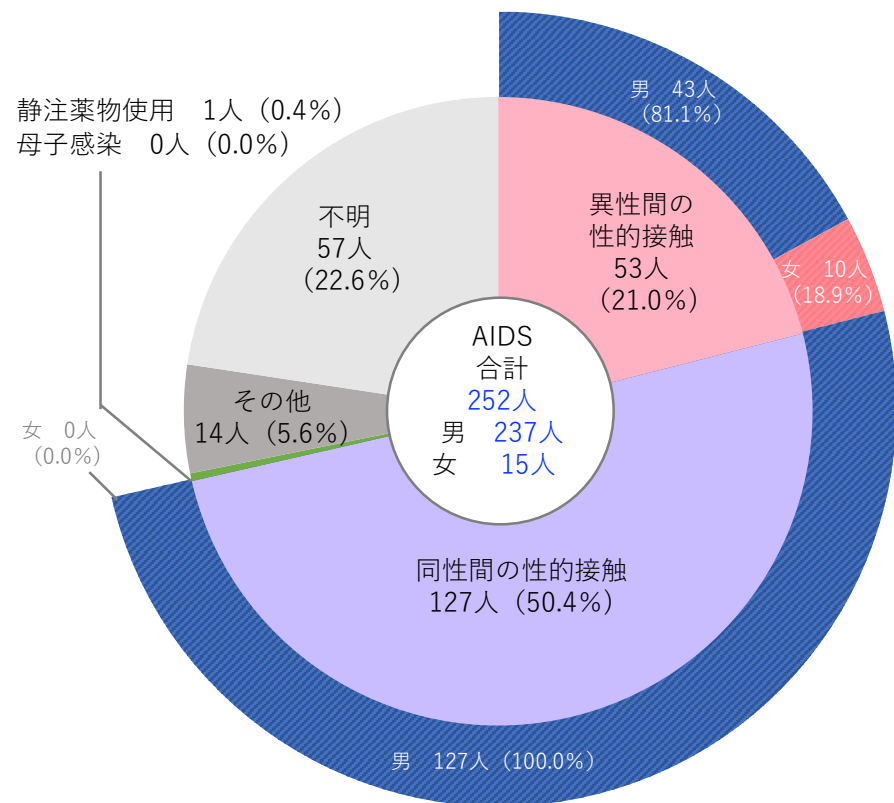
関西医科大学医学部  
微生物学講座  
大隈 和

# 我が国の動向①（2022年新規報告）

2022年新規（HIV感染）

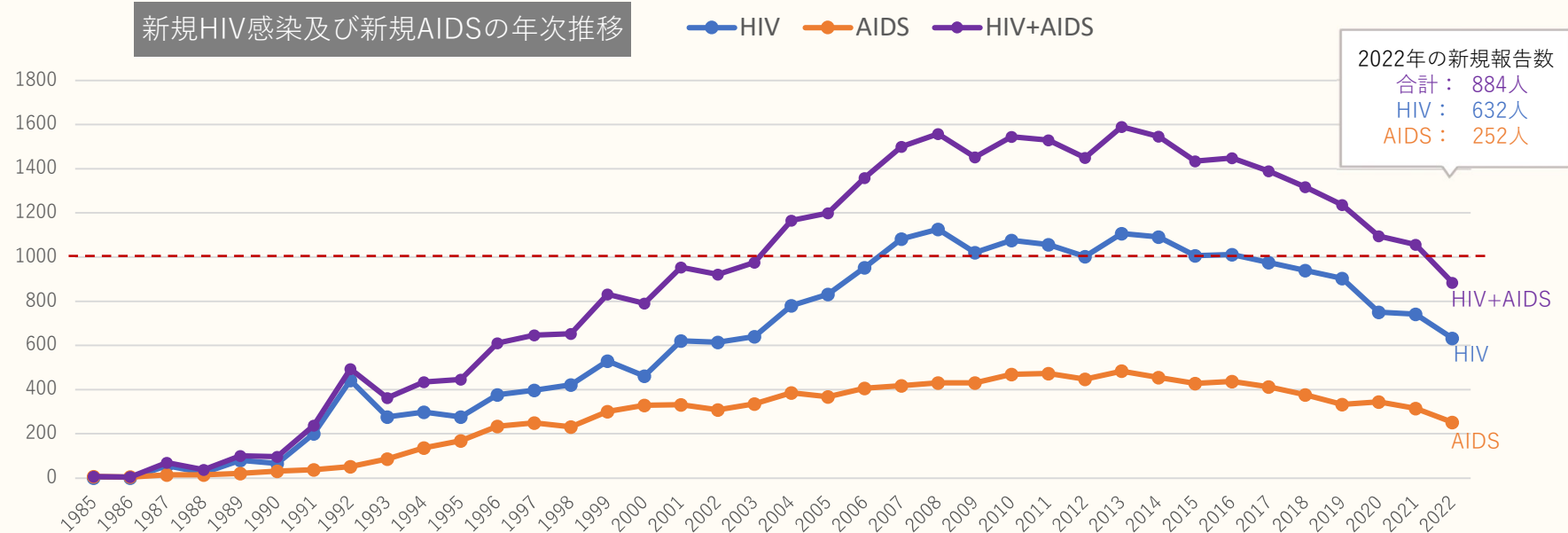


2022年新規（AIDS）



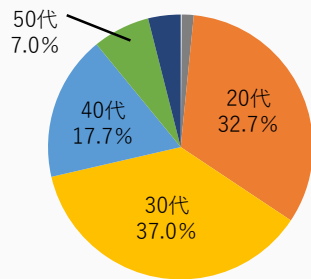
- ❖ HIVの感染経路は主に3つ（**性感染**、**血液感染**、**母子感染**）で、いずれもHIVを大量に含む**感染者の体液**（**血液**、**精液**、**膣分泌液**など）が粘膜や皮膚の傷口から血中に侵入して感染する。HIVは外部環境中では弱いウイルスであるため、HIV感染者と日常生活を送る中で感染することはまずない。
- ❖ 上と次のスライドのグラフは令和4（2022）年エイズ発生動向年報（厚生労働省発表、2023/8/18）を元に作成した。
  - 日本国籍と外国籍の報告数を合計した数値である。
  - 同性間の性的接触には、両性間性的接触を含む。
  - その他には、輸血などに伴う感染例、推定される感染経路が複数ある例を含む。
  - 四捨五入しているため合計が100%にならないことがある。
  - 1985-2022年末までの累計には、グラフ以外に、凝固因子製剤による感染者が累計1,440人存在する。

# 我が国の動向②（年次推移、年代別、性別・感染経路別） 3

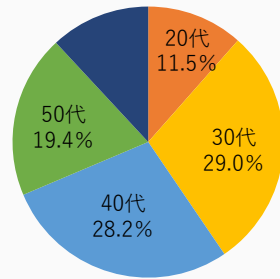


### 年齢別内訳（2022年）

新規HIV感染者：632人



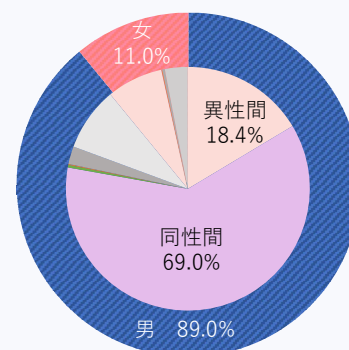
新規AIDS患者：252人



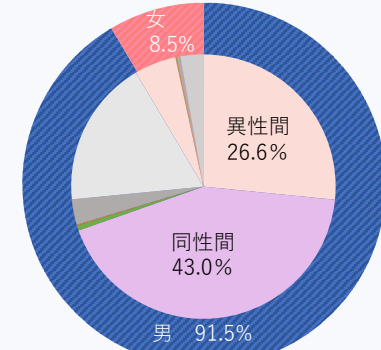
10歳未満  
 10-19歳  
 20-29歳  
 30-39歳  
 40-49歳  
 50-59歳  
 60歳以上  
 不明

### 性別・感染経路別内訳（1985-2022年の累計）

HIV感染者：23,863人



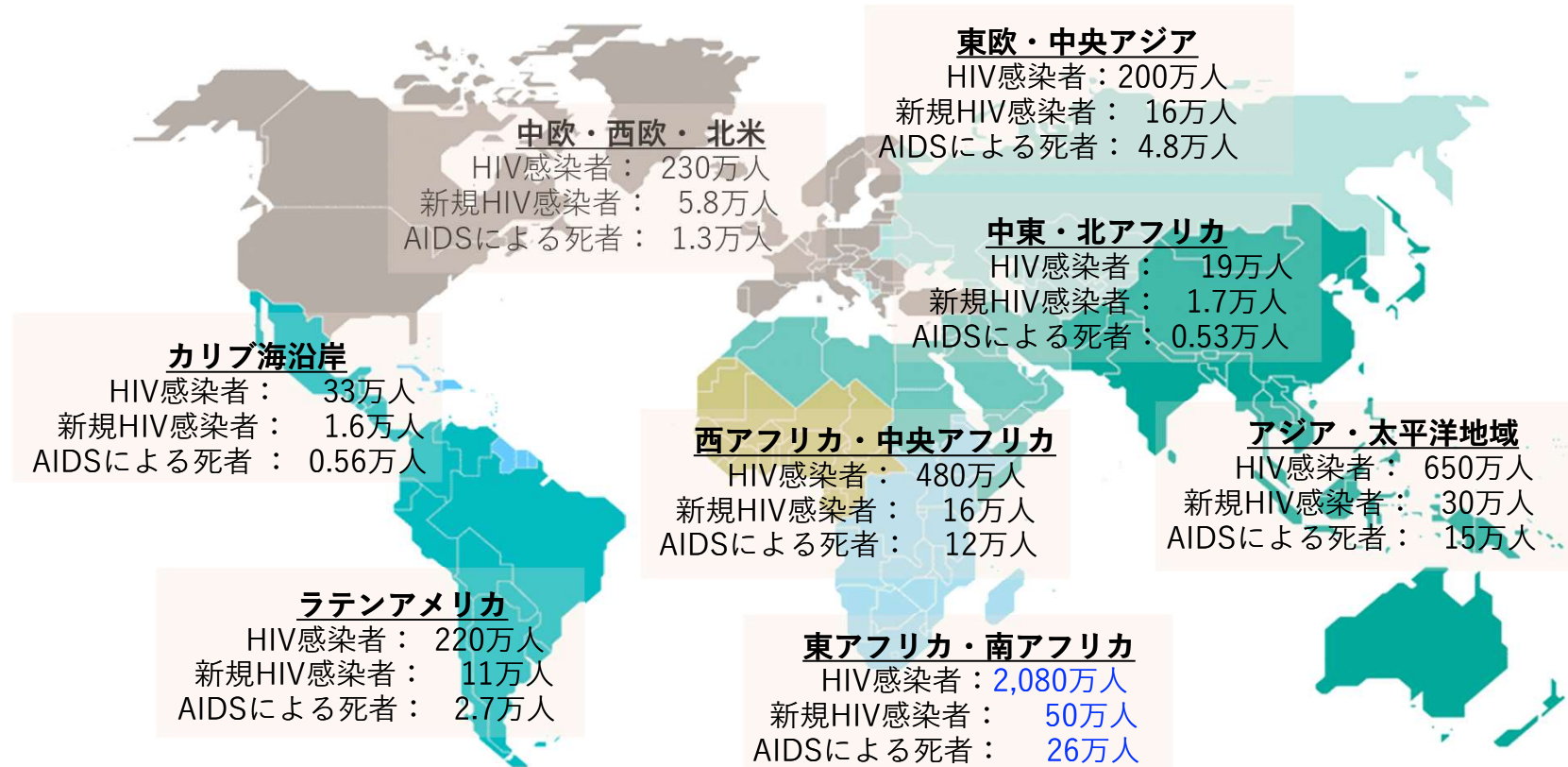
AIDS患者：10,558人



異性間の性的接触  
 その他  
 同性間の性的接触  
 静注薬物使用  
 母子感染  
 不明

# 世界の動向①（地域別）

UNAIDS Core epidemiology slides, 2023/7/13より作成



※HIV感染者は、現在その国・地域に暮らしている感染者（見積り・概数）  
※新規HIV感染者・AIDSによる死者は2022年のみの概数（見積り・概数）

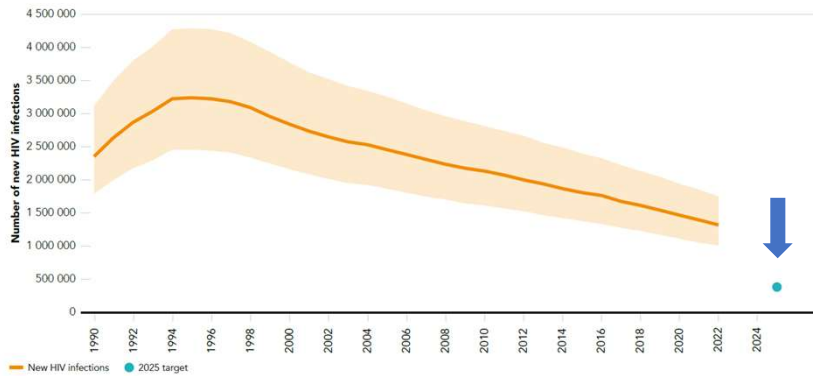
全世界でHIV感染者は**3,900万人**、2022年の新規HIV感染者は**130万人**、AIDSによる死者は**63万人**とされている。

※数字は全てUNAIDSの発表に基づくが、上記の地図の合計とは必ずしも一致しない。

- ・ 1日に3,500人以上が新規にHIV感染している計算になる。
- ・ HIV感染者・AIDSによる死者の多くが**サブサハラ(sub-Saharan Africa)**と呼ばれる、**サハラ砂漠以南のアフリカの国々に集中**している。この地域は、世界的に見ても特に**貧困・紛争・飢餓**などに苦しんでいる国々でもある。
- ・ 15歳未満の子ども→HIV感染者：150万人、新規感染者(2022年)：13万人、AIDS関連死(2022年)：8.4万人。

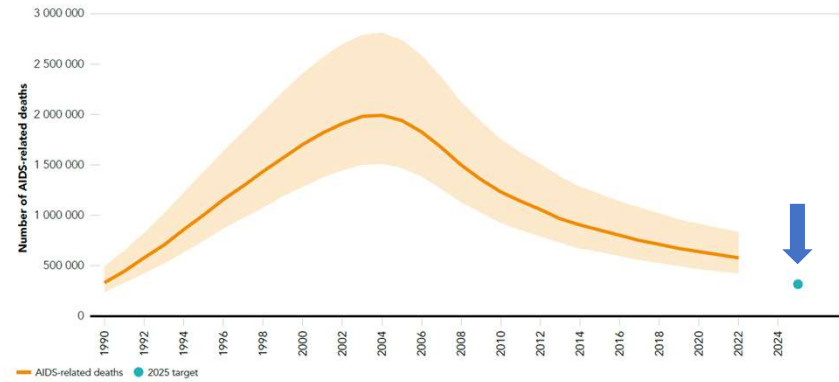
# 世界の動向②（新規感染者・AIDS関連死）

Number of new HIV infections, global, 1990-2022



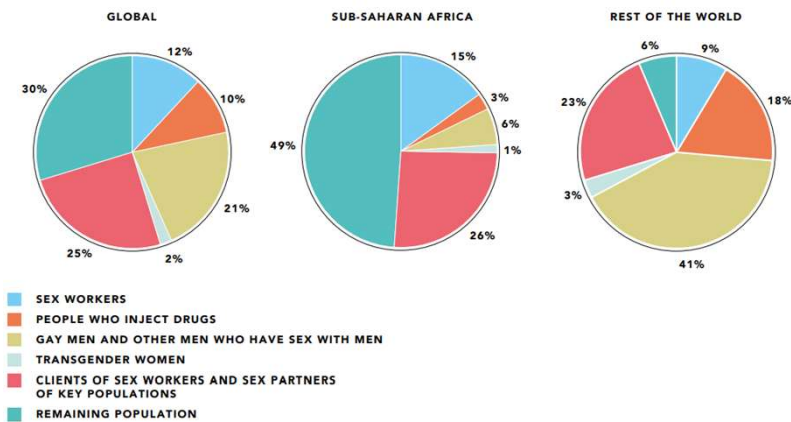
Source: UNAIDS epidemiological estimates, 2023 (<https://aidsinfo.unaids.org/>).

Number of AIDS-related deaths, global, 1990-2022



Source: UNAIDS epidemiological estimates, 2023 (<https://aidsinfo.unaids.org/>).

Distribution of acquisition of new HIV infections by population, global, sub-Saharan Africa and rest of the world, 2021



Source: UNAIDS special analysis, 2022 (see Annex on Methods)

Note: Due to variations in the availability of data from one year to the next, we do not provide trends in this distribution. See Annex on Methods for a description of the calculation.



- SDGs（2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）の1つ(3-3)に、“End the epidemics of AIDS, tuberculosis, malaria and neglected tropical diseases and combat hepatitis, water-borne diseases and other communicable diseases”があり、2025年に中間目標が定められている。
- なお多くの方がHIV感染症やAIDSで苦しんでいるが、**新規感染者・AIDS関連死ともに世界的に減少傾向にある。**

- LGBT（特にMSM：men who have sex with men）に対する各国の献血制限は、HIVや肝炎ウイルスの安全対策として導入された。
- 「エイズの検査」という表現は今は使わないので「HIV」に修正すべきではないか、また諸外国はMSMの献血を認める方向で進めているが日本でも進める必要はないか、といった意見がある。
- 性的マイノリティへの理解を深めるための「LGBT理解増進法」の成立・施行され、LGBTに対する社会の理解や検査法の進歩から献血制限の緩和が進んでいる。
- 英国、米国、カナダ等で、（MSMというだけでなく）**個別リスク評価（性感染症罹患歴、薬物を使用したセックス、セックスワーカー、新たな/複数のパートナーとの性的接触）**によるHIV感染リスクが評価された。その結果、新しい、もしくは複数のパートナーとのアナルセックスが感染リスクが高いことが分かった。
- **各国ではこの結果に基づき、近年献血受け入れ基準を変更した。**基準変更後のモニタリングにおいて、HIV感染リスクの上昇はみとめられていない。

## 各国のMSM供血者選定基準 (2023年5月現在、ドイツ医学会資料を改変)

国名	供血延期期間	実施年
イタリア	個別リスク評価	2000
スペイン	個別リスク評価	2001
デンマーク, フィンランド, オランダ	4ヶ月間	2020
チェコ	6ヶ月間	2007
アイルランド	1年間	2017
オーストリア, ポルトガル	1年間	2020
スエーデン	1年間	2011
スロバキア, スロベニア	1年間	2020
ハンガリー	1年間	2020
オーストラリア, ニュージーランド	3ヶ月間 (豪: 原料血漿は個別リスク評価)	2020 (2023)
カナダ	個別リスク評価	2022
アメリカ	個別リスク評価	2023
イギリス	個別リスク評価	2021
フランス	個別リスク評価	2022
スイス	1年間	2017
ドイツ	4ヶ月間	2021
香港	6ヶ月間	2021

Blutspende von Personen mit sexuellem Risikoverhalten - Darstellung des aktuellen Standes der medizinischen Wissenschaft ;Stand 26.05.2021 を改変